

第6学年 家庭科 学習指導案

宇和島市立明倫小学校

教諭 西原 睦美

1. 単元名 「持続可能な社会を生きる」

2. 単元の目標

- ・ 自分や家族等の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方を理解する。
(知識・技能)
- ・ 物の使い方や環境に配慮した生活について、自分の生活の中から課題を見出し、解決に向けて実践し、振り返ることができる。
(思考・判断・表現)
- ・ 環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践することができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、自分の生活と環境との関わりを意識させ、実践や友達との交流を通してより様々な視点から持続可能な社会にするための取組を考えること、また、自分や家族、周囲の人たちと協力していこうとする意欲を高めることを目指す。これまでの学習を通して、現在の便利で快適な生活を支える資源には限りがあるということ、このような生活の結果として地球環境が悪化していること、そして、現在のような生活スタイルの持続は難しいということを見出し、児童は理解し始めている。SDGsに関しては、様々な場面で取り上げられるようになり、家庭科の学習でも持続可能な社会のために自分たちができることに関して理解を深めてきているが、具体的な取組を継続して行うまでには至っていない。本単元での実践を通して、学習内容をより身近なものとして捉え、深め、継続しようとする意欲を高めたい。こうした取組に関しては、生活の充実と環境に配慮することをいかに両立させていくかを考え、ただ我慢するのではなく、無理のない範囲で、楽しみややりがいを見付け、持続可能なものにしていくことが大切であると考え。また、そうした取組がよりよい未来のために役立っているという価値の気付きにつながるよう学習を展開したい。

(2) 児童観

本学級の児童は、第5学年の家庭科「整理・整とんで快適に」の学習で、ごみを減らす3Rや5Rの取組から物を生かして使う工夫について知ったり、「温かく快適に過ごす着方・住い方」の学習で、エネルギー消費を減らす大切さについて理解を深めたりしている。さらに、第6学年では「すずしく快適に過ごす住まい方」「すずしく快適に過ごす着方と手入れ」の学習を通して、エコ生活で涼しさをアップする工夫や環境に配慮した洗濯の仕方などを学習している。児童は、家庭科の学習に対する関心度が高く、家庭での実践も熱心に行っている。今回の取組を通して、今後も、持続可能な社会にするために「つかう責任」を意識して消費活動を行う中で、無駄のない使い方について考え、自分にできることに取り組んでいこうとする意欲を高めたい。また、周囲の人と協力して取り組むことで、活動の楽しさを味わったり、一人一

人の取組が大きな力につながることを知るきっかけとなったりすると考え、本単元を行う意義は大きいと感じている。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、教科書の挿絵や宇和島市のごみの量、本校の電気や水道の過去5年間の使用量の推移を表す資料を提示する。これらの資料を通して、自分の家庭生活や学校生活が環境に何らかの影響を与えていることを知り、様々な環境問題や宇和島市や本校の現状や課題に気付かせたい。この学習から、自分たちのどのような行動や活動が環境に影響を与えているかについて理解し、環境に配慮した生活を考えようとする意欲を高めたい。

次に、資料から分かったことや自分たちの生活の変化によって今後どのようなことが起こりうるかを話し合い、環境に配慮した消費の仕方について理解を深めたい。また、その中で見出した課題解決に向けて、家庭で取り組みそうなことを考え、実践につなげる。その際、教科書に書かれている様々なエコに関する取組を参考にすることで、児童にとって無理なく、また、学習したことが生活に生かされることを実感させたい。家庭での実践では、一つの取組を1エコとし、家族の取組も含めてポイントを貯め、100ポイントを貯めることができれば、「明倫小エコマスター」に認定されるという取組を紹介し、意欲を高めたい。

そして、それぞれの取組をグループや全体で報告することで、個々の取組を共有し、衣食住に分類して掲示物を作成する。グループや全体で紹介することで、互いの取組や努力を称賛し、同じ目的に向かって取り組む喜びを実感したり、自分では思い付かなかった取組を知り、実践してみようとする意欲を高めたりしたい。また、学年全体で取り組むことで他学級の児童の取組についても掲示物を通じて確認でき、他学級の児童の頑張りを知ることで、更なる実践や継続につなげたい。

さらには、「エコ仲間の輪を広げようプロジェクト」と題して、これらの活動を下級生や学校外へも発信し、活動を広めるための手立てを考える。様々な取組を知ってもらうためにポスターや掲示物、合言葉などを作成して周囲へ発信することで、取組を持続していこうとする意欲を持ち、今後の継続した実践につなげたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

有限性…資源は有限であり、ごみ処理も無限にできるわけではないことを知り、資源を大切にしたり、ごみを減らしたりしようとする。

公平性…今さえよければいい、自分さえよければいいという考えでは持続可能な社会を創ることができないと気づき、小さなことでも自分が行動しようとする意識する。

責任性…持続可能な社会を創るために、人任せにするのではなく、まず、自分の生活や行動を見直し、よりよいものへ変えようとする行動する。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力(クリティカルシンキング)

便利で快適な生活も大切だが、有限である資源を大切に、自分の生活を見詰め直す。

未来像を予測して計画を立てる力(長期的思考)

自分たちの学習や行動を今後につなげるために、どのように周囲に伝えていくか考える。

コミュニケーション力

これからの生活や行動について、意見交流を通して自分の考えを深めたり、考えを広げたりする。

協働的問題解決力

友達と協力することで、できることを見付け、みんなでよりよい取組を継続したり、学校内外へ活動を広げたりする。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

よりよい生活や行動によって、未来につながる環境づくりが大切である。

自然環境・生態系の保全を重視する

快適な生活も大切であるが、環境に負荷を欠けてしまう生活は持続可能ではない。

・ 達成が期待される SDG s

目標 12：つくる責任 つかう責任

4. 単元評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①自分の生活と身近な環境との関わりについて理解している。 ②自分の生活と環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解している。	①環境に配慮した生活について問題を見出して課題を設定している。 ②環境に配慮した生活について考え、工夫している。 ③環境に配慮した生活について、実践を評価したり、改善したりしている。	①環境に配慮した生活について課題の解決に向けて主体的に実践しようとしている。 ②環境に配慮した生活について課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ③環境に配慮した生活について工夫し、実践しようとしている。

5. 単元の指導計画（全4時間）

時	主な学習活動	学習への支援（・）	評価・備考
1	○教科書の挿絵や宇和島市のごみ、本校の電気や水道の使用量の推移表を見て、どのような問題が起きているか考える。 ・温暖化や大気汚染、海洋汚染が進んでいる。 ・宇和島市は、ごみの量は減っているのに、処理費用は高くなっている。 ・数年で、本校の電気の使用量と料金	・挿絵の各部位を拡大させて表示することで、児童が様々な視点に目を向けられるようにする。 ・周囲の問題ではなく、自分の生活にも関わる問題だという意識を持たせるように身近な資料を提示する。	ア① (知・技) イ① (思判表)

	<p>がすごく増えている。</p>		
2	<p>○自分たちの生活や変化を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみは減っているけれど、人口が減っているので、処理費用が高くなっているのではないか。 ・電気の使用量が増えたのは、空調設備が整ったからだと思う。 <p>○持続可能で自分にできそうな取組を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生で習った5Rの取組をしてみよう。 ・6年生で学習した打ち水を毎日、実践してみよう。 ・調理で無駄をなくすよう、家族と協力してやってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数字の変化の理由について、多様な考えに触れることができるように話合いの機会を設ける。 ・自分が無理のない範囲で、学習したことを使って取り組みそうなことや家族でできそうなことを見付けられるように、教科書を見直すよう促す。 ・家庭で意欲を持って取り組めるように、エコポイントやエコマスターについての取組を紹介する。 	<p>ア② (知・技)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
3	<p>○家庭で行った取組をグループで報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白い取組をしているな。自分も家庭でやってみよう。 ・100ポイント貯まったのは、自分だけでなく家族も一緒に頑張ってくれたからだ。 <p>○取組を分類して、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住で、こんなにいろいろな取組ができるのか。 ・いろいろな人に見て、取り組んでもらえたらいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して実践内容を報告するよう事前に伝え、実践したことを写真などを使って分かりやすく紹介するよう促す。 ・エコポイントが100ポイント貯まって、エコマスターになった児童への認定書を配ることで、努力を称賛する。 ・事前に取り組んだことをカードに書いておくことで、その場で掲示物を完成させ、全体での取組を視覚的に捉えられるようにする。 	<p>イ②③ (思判表)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
4	<p>○「エコ仲間の輪を広げようプロジェクト」の活動内容を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下級生に意識してもらえるように、ポスターを作ろう。 ・作った掲示物を、学校外に掲示して見てもらったらどうだろう。 <p>○宇和島市内で取り組まれているSDGsに関する取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんな取組があるのか。 ・自分も取組に参加してみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からの意見を元に、いくつかのグループに分かれて協力して取り組めるようにする。 ・やりたいことをどのように進めていけば効果的か、アドバイスをする。 ・まずは、自分たちが手本となり、今回の家庭での取組を継続するよう声掛けをする。 ・宇和島市内でも様々な取組していることを伝え、SDGsに関する理解や意欲を高める。 	<p>ウ③ (主体的)</p>